

## 2021年 新年のご挨拶 “変わりつつある時代だからこそ、さらなるもう一步を”

理事長 有馬真喜子

新しい年が始まりました。まず何よりも、このニューズレターを手にとって下さっているすべての皆さま、ご家族、ご友人、お仲間や親しい方々、そして世界のすべての人々の、本年の安全と安寧を、心からお祈り申し上げます。

そして、灰かでもいいですから光、わずかでもいいですから希望が見える年であることを、ひたすら願っています。

昨年の中頃、新年のご挨拶の原稿を書いているころ、世界が現在のような姿になるなど誰も想像もしていませんでした。でもそれから世界は一変しました。

(特)国連ウイメン日本協会の活動も大きな打撃を受けました。3月10日に予定していた「国際女性デー ミモザ チャリティ ランチョン」は中止を余儀なくされました。皆さまが応援して下さい満席の集まりでしたのに。

それからは、誰にとっても、楽しさや親しさを奪われ、忍耐を要求される日々が続きました。テレワーク、リモート会議と働き方も一変しました。家族が共に過ごす時間が長くなることで、家族のあり方が変わる、と思えた反面、女性や子供への家庭内暴力が増えたとの報道が多く、衝撃を受けもしました。

UN Womenが予定していた北京プラス25の催しや国連女性の地位委員会なども中止あるいは姿を変えました。

国連ウイメン日本協会は、今、激変した環境の中で、“新しい日常”を意識しつつ、少しずつ歩みを始めています。速い速度で進みつつあるデジタル社会化の中で、メールマガジンの情報や配布先を増やし、SNSを増やしつつあります。企業訪問ができない中で、オンラインで国連ウイメンを知っていただく活動も試みました。オンライン・レクチャーの企画もあります。コロナ感染拡大で苦しむ世界の女性たちへの寄付に、皆さまのご協力をいただきました。

そうした中で、あらためて学んだことも幾つかあります。

国連ウイメン日本協会は、皆さまからいただいたご寄付を、ロヒンギアの難民キャンプで暮らす女性たちに、必要な品々を届け、同時に女性の自立を支援する活動

などにお届けしていますが、このキャンプのなかでは、既に理容師、裁縫職人などの職業を身につけ、自立して働く女性が出てきています。難民だから、女性だから、といて縮こまっているのではない女性たちです。

世界中の社会が不安に直面している中で「持続可能な社会」を目指すSDGsの大切さが、あらためて認識されています。今はことに環境問題が注目を集めていますが、SDGs目標5の「ジェンダー平等の達成と女性・少女の能力強化」に関連して「医療従事者の7割は女性」という発言を聞いたときには、「そうなのだ」とハッとさせられました。女性たちは、社会を守るために第一線で闘っています。

その医療従事者への心無い差別が行われている悲しい現実も、目の前に突き付けられています。格差が拡大し、それを肯定する人々もいます。一方で、その医療従事者へ「ありがとう」のメッセージを送る人や、近所の一人親家庭をさりげなく支援する人もいます。変化の時代は、社会や人々の在りようをくっきりと映し出すようです。

たくさんの方が露わになる現実の中で、UN Women及び国連ウイメン日本協会が、私たちの社会の中で、まだまだよく知られていないことも、あらためて認識させられました。同時に、矛盾する言い方のようですが、以前よりはずいぶん理解いただいていることも知りました。皆さまのご努力のおかげさまで。変わりつつある時代だからこそ、今こそ、更なるもう一步をご一緒に、と心から願っています。



## 日本協会が支援するUN Womenのプロジェクトについてのご紹介とご報告

国連ウィメン日本協会に対し、毎年皆様からの温かいご支援・ご寄付を賜り、心より感謝を申し上げます。

UN Womenの目標、“ジェンダー平等達成”のために、“ともに考え、行動を起こし、世界規模の活動を実現し、世界中の女性や少女が希望をもって生きる社会を目指す”というミッションの下に、日本協会は、3つの優先分野（人道支援、経済的自立支援、女性に対する暴力撤廃）を視野に、支援活動を展開してまいりました。

今号では、日本協会からの支援が具体的に、どの地域で、どのようなプロジェクト・活動に充てられているのか、日本協会が、過去5年にわたり継続的に支援している、2つのプロジェクト内容についてご紹介をいたします。

### 「ロヒンギャ難民キャンプ」

#### UN Women多目的女性センター支援

バングラデシュのコックスバザールにある世界最大の難民キャンプには、現在、90万人以上のロヒンギャ難民が生活を営んでいます。セキュリティは継続的な懸念事項です。このような環境下では、女性と少女のニーズはしばしば忘れられますが、UN Womenにとっては、最優先課題です。

UN Womenは、2018年に、この難民キャンプ内に5つの「UN Women多目的女性センター」を設立、その運営にあたり、様々なプロジェクトを展開してきました。

センターでは、1.ロヒンギャの女性と少女のため教育、2.職業訓練、3.仕事の機会提供、4.性的暴力被害者のトラウマカウンセリング、5.女性の交流コミュニティなどの役割を担っています。特に職業訓練では、裁縫の技術や小規模事業の起業スキルなど取得し、女性の経済的自立につながる役目を果たしています。

また、センターは、センターという安全なスペースを確保し、暴力、性的搾取と虐待の防止、児童婚と人身取引について被害者や関係者から情報を得、問題意識を高める方策に努めています

多目的女性センターの活動がさらに充実し、多くの難民女性が未来に向けて、自分で生きる、自立の力を育む希望の場になることを願い、支援してまいりました。

支援額：2017年より2020年まで、合計965万円



コックスバザール  
難民キャンプ



縫製技術訓練を受ける  
ロヒンギャ難民女性

### 「女性に対する暴力撤廃信託基金」支援

国連システムの基金である「女性に対する暴力撤廃信託基金」は、国連機関を代表してUN Womenが事務局を担う女性と少女の人権を守るための世界規模の共同プログラムです。

暴力の防止、サバイバー向けサービスのアクセス改善、女性と少女に対する暴力の予防と撤廃に関する法律や政策の実施において、女性の権利に焦点を合わせた、女性主導の市民社会団体を支援するものです。世界中の女性の推定 35%が、親密なパートナーによる身体的および/または性的な暴力またはパートナー以外による性的暴力を経験しています。すべての女性と少女には暴力から解放されて生きる権利があります。

しかしその権利が世界中で実現するまでは、暴力を受けた人々を支援するために必要不可欠な包摂的サービスを、どの地域であろうとも届けなければなりません。

世界48の国々では、政府、市民社会、UN Womenと4つの国連機関による共同プログラムによって作成された政策枠組みと必要不可欠な支援に関する統一基準を参考にしています。これらによりすべての女性と少女が同じ水準のサービスを受けることができ、そのサービスは、背景となる暴力、リスクマネジメント、安全確保と保護の対策などに関する、共通の理解に基づいたものになります。

2018年には、70の国と地域のプロジェクト125件を対象に支援を行いました。

支援額：2016年より2020年まで、合計380万円



## 世界的ファッションデザイナー森英恵様から 女性・少女への応援メッセージ

2021年1月吉日

昨年は、コロナ禍で、皆様大変つらい一年をお過ごしだったこと  
と思います。春に向かい、ワクチン接種の可能性も耳にしますと、  
今年こそ、コロナに打ち克ち、これまでの日常が戻ることを願うば  
かりです。

世界で保健・医療現場で働く人の70%は女性とお聞きし、命を守  
るために、医療の最前線で働く女性の方々の力強さに心からの敬  
意を申し上げます。

私は、最近、友人から世界のコロナパンデミック下における、ジェ  
ンダー事情を聞く機会がありました。開発途上国、難民キャンプ、  
スラム地域などで、脆弱な女性・少女への暴力が激増し、女性の非  
正規雇用、インフォーマル ビジネスからも女性の仕事が奪われ、貧  
困のどん底にいる事実を知り、どんな苦しみの中で女性達が生き  
抜いているのか、想像するだけでも、心が痛みます。



一方で、ドイツのメルケル首相をはじめとする女性リーダーが、国民に、時に力強く、時にとてもフレンド  
リーに語りかけていらっしゃる姿も心に残りました。イギリスで、志願して最初にワクチンを接種したの  
は91歳の女性だったそうですね。

私は幼いころから手でモノを創るのが好きで、長年、女性の服づくりを仕事としてきました。今も、少  
しずつですが、デザインを考えたり、ピンを打ったり、仕事を続けています。いつも前を向いて手を動か  
し、蝶と共に元気に世界を飛んできました。

仕事を重ねるうちに、私が強く思うようになったのは、私がこの仕事をつづけられたのはファッション  
を身につけて下さる女性たちがいるからです。女性の方々に支えられて仕事を続けることができた、と  
いう思いと感謝の気持ちは、年と共にますます強くなっています。

私は女性の無限の力を信じています。同時に、それを育む環境が必要とも思います。  
国連のUN Womenが、ジェンダー平等を目指し、世界のさまざまな場で女性・少女への支援活動をおこ  
なっていると知り、私も一緒に何かできたらいいなあと思っています。

国連ウイメン日本協会の情報をご覧ください。厳しい状況におかれている世界の女性と少女  
に温かい気持ちをお届けいただければ、彼女たちの生きる力、将来の自立につながると信じています。

森 英恵

## 「2021年国際女性デー」のテーマが発表されました。

UN Womenは、2021年3月8日の国際女性デー（IWD 2021）のテーマを、「リーダーシップを発揮する女性たち：コロナ禍の世界で平等な未来を実現する」にすると発表しました。

このテーマは、世界各地で今よりも平等な未来の実現と、コロナ禍からの回復に取り組む女性と少女の賢明な努力をたたえるものです。

このテーマは、第65回国連女性の地位委員会の優先テーマ「ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成のための女性の公的領域における完全かつ効果的な参加と意思決定及び暴力根絶」や、UN Womenの旗印でもあるジェンダー平等キャンペーンの趣旨とも一致しています。このキャンペーンでは、社会生活のあらゆる領域において意思決定に女性がかかわる権利、同一賃金、無償のケア労働や家事労働の平等な分担、女性と少女に対するあらゆる形の暴力の根絶、女性と少女のニーズに応えた保健医療サービスの提供などを訴えるものです。

\*2021年国際女性デーの詳細は、UN Womenから届き次第、随時ホームページ、メルマガなどでお知らせしてまいります。



## 女性への暴力をなくし、平和への参加を

谷津 都萌子-UN Womenタンザニア事務所-  
女性に対する暴力撤廃と女性・平和・安全保障を担当

タンザニアでは、女性の約40%が身体的暴力を、17%が性的暴力を受けており、世界の平均を上回っています。36%が18歳になる前に、59%が20歳を前に結婚しており、男性より5歳も早くなっています。児童婚を経験する女兒は、早期妊娠や、学校からの退学、社会からの孤立や家庭内暴力の危険にさらされます。また、約790万人の女性や女兒が性器切除を経験し、感染症や不妊だけにとどまらず、死に至ることもあります。精神面でも悪い影響を及ぼしています。こうした習慣は深刻な人権侵害を伴います。国の発展に伴い、全ての人が取り残されない社会を築くために、さらなる努力を重ねていくことが必要です。

私が担当するプロジェクトでは、現地のNGOと共に、市場で働く女性と男性、またコミュニティーに住むすべ

ての人を対象として、暴力に対する考え方や態度を見直し、予防と対策について、地域に根付く文化や習慣、人々の意識にポジティブな変化を促すための活動を行っています。また約300人のコミュニティーボランティアと共に、自治体、警察、社会福祉専門機関、病院との連携強化を図り、暴力を受けた被害者が適切なサポートを受けられるよう対策を取っています。

女性・平和・安全保障のプロジェクトでは、タンザニアで初めてとなる「女性・平和・安全保障に関わる行動計画」の策定に取り組んでいます。タンザニアは、地域の平和と安定を目指し、コンゴ民主共和国及びブルンジ等大湖地域情勢の安定促進に取り組んでおり、スーダン等での国連平和維持活動として多くの警察や軍の派遣をしています。

今年は安全保障理事会決議第1325号が採択されてから20年目の節目の年です。タンザニアの女性たちが積極的に紛争の予防や解決、平和構築、平和維持のために、全面的に参加する取り組みが不可欠です。また紛争地で性的暴力から女性を守り、紛争後の地域社会の復興に力を尽くすことができるよう、政府を中心に、市民社会や女性団体の声も取り入れ、行動計画の策定に向けて意見交換を行っています。ある研究では、女性が和平合意プロセスに参加すると、その合意が15年間続く可能性が35%増加すると報告されています。平和を構築し維持し続けるために、女性の参画促進が求められています。

(谷津様は、昨年末にUN Womenアジア太平洋地域事務所 COVID-19プログラム・コーディネーターに着任されました。)

注 Demography and Health Survey and Malaria Indicator Survey 2015-2016, National Bureau of Statistics, Office of the Chief Government Statistician, United Republic of Tanzania

注 O'Reilly, M., O Suilleabhain, A., & Paffenholz, T. (2015, June). Reimagining Peacemaking: Women's Roles in Peace Processes. International Peace Institute.



タンザニア北西部キゴマ州での女性に対する暴力撤廃のための啓もう活動にて



「女性・平和・安全保障に関わる行動計画」のプロジェクトメンバーと共に

## オンラインUN Women国内委員会年次会合 (11月9日—11日)

初めての試みであるオンライン国内委員会 (NC) 年次会合が11月9日から11日まで開催されました。開始時には30+人の参加者がいました。ニュージーランドやオーストラリアにとっては真夜中から始まる会議であったにもかかわらず、一部出席されているのには感心しました。

冒頭、キアラ・ペースデジタル・個人・公的寄付部門長から現状の説明がありました。UN Womenの全体的な収益は減少したけれどNCからの拠出金は増えている、コースリレーテッドマーケティング (CRM) やマンスリードネーションはCOVID-19 (新型コロナウイルス感染症) の影響をあまり受けなくて好調なのが原因の一つ、という事です。

今回のミーティングの特徴として以下の3点があげられると思います。①互いに協力し、学び合えるNCコミュニティの構築、②地域事務所 (RO) やカントリーオフィス (CO) とNCの連携強化、③マンスリードネーションの向上。①に関しては、NCのメンバーが意見交換できるチーム構築のセッションが3つも開催されました。お互いに情報交換を密にして、キャンペーンキットを共有することなどが話し合われました。②に関しては、カメルーンCO、東南アフリカRO、ネパールCO、ハイチCOのスタッフが参加して3つのセッションが持たれました。③は今年に限らず毎年繰り返されることですが、今回はコロナ下でもこの傾向はいささかも変わらないということです。

2021年に向けては、Generation Equality Forum (平等を目指す全ての世代のためのフォーラム) のパンデミック状況を考慮したうえでの展開、新NCの設立などがあげられます。後者に関しては現在スペインが一番有力で、他にもデンマーク、韓国、カナダ、イタリアが考慮されています。またヌクカ事務局長の任期が来年限了し、8月には新事務局長が就任する予定ということです。



## アマゾン社員向け啓発イベントで講演

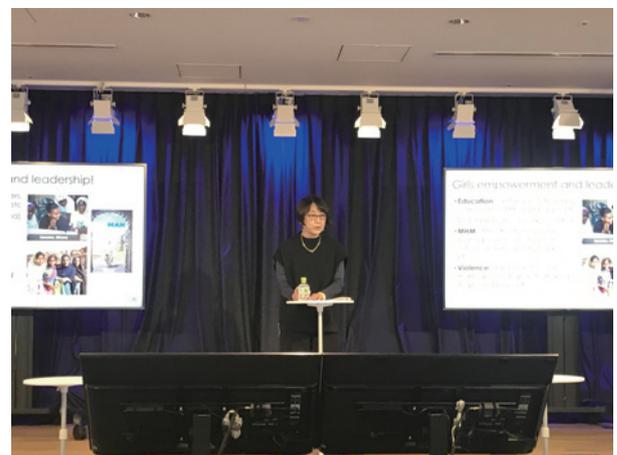
昨年10月27日、東京目黒のアマゾン社のスタジオからオンライン (Amazon Chime) で社員イベントが開催され、日本協会からGender EqualityとUN Women/日本協会についてご紹介する機会をいただきました。

アマゾン社では、社内のwomen@amazon affinity group (若い層の男女社員からなる自主的組織) が社会的テーマの下、啓発イベントを企画、実施しており、今回のジェンダー平等の講演はその一環として、日英同時通訳付きで行われ、社員346名が参加、そのうち38名はnon-Japaneseでした。

田中由美子日本協会理事が、Gender Equality and Women's Empowermentについて講演、その後伊藤理事が、UN Women/日本協会の活動について、紹介しました。

質疑応答では、ジェンダー平等はいつ頃達成できると思うか、ボランティアに参加できる機会はあるかなどのご質問がありました。

日本協会では今後もこのような啓発活動を推進したく思っております。もし、ご関心のある企業、団体がありましたら、ぜひ事務局までご連絡ください。



「ジェンダー平等と女性のエンパワーメント」について講演をする  
田中由美子理事

## 2019年度拠出金支援報告

2019年度の拠出金は、総額3,991,156円となりました。ご寄付にご協力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

拠出金は、2019年12月と2020年1月に送金し、以下のプロジェクト等を支援します。

### ①バングラデシュのロヒンギャ難民女性・少女支援プロジェクト 2,150,000円 (19,469.35ドル)

UN Womenはバングラデシュ・コックスバザール地域で、ロヒンギャ難民女性・少女の自立支援プロジェクトを行っています。日本政府を始め多くの国と団体が支援しており、日本協会からの支援金は、女性たちの職業訓練や憩いの場を提供する多目的女性センターの設立・運営に役立てられます。

### ②女性に対する暴力撤廃国連信託基金 1,000,000円 (9,055.51ドル)

### ③UN Women本部コア資金 841,156円 (7,642.71ドル)

## 協力協定団体の活動

### 国連ウィメン日本協会 北九州

2020年はコロナ禍により毎年7月に開催していたバザーも実施できず、事業も何もできずに終わるのかと思われましたが、役員の方から「こんな時こそぜひやしましょう」との声が上がり、12月13日（日）に講演会を実施しました。

講師は法政大学総長の田中優子さんをお願いし「コロナの先の未来のために—教育と女性のエンパワーメント」と題してお話いただきました。オンラインでの登壇でしたが、女性への力強いエールをいただきました。

また、講演に先立って、昨年6月に亡くなられた藤岡佐規子さんを偲びました。藤岡さんは、ユニフェム北九州を設立し長く会長を務められた後、国連ウィメン日本協会北九州の名誉会長として私たちの活動を温かく見守って下さいました。私たちは藤岡さんの思いを忘れずに活動を続けていきたいと思っております。

事務局 鷹取典子



オンライン講演会の様子

### 国連ウィメン日本協会 大阪

10/31(土)にクレオ大阪東で開催された「SDGsフェスタ」と、11/21(土)にクレオ大阪中央で開催された、年に一度の館まつり「フェスタ」に、国連ウィメン日本協会大阪としてブース出展をしました。毎年、多くの方が参加されるクレオ大阪のフェスタですが、2020年は感染防止対策をとられてのイベントとなっており、安心して参加することができました。当日は幅広い世代の方々にブースに立ち寄っていただき、活動紹介やグッズ販売、募金活動を行うことができました。他の出展者の方々とも交流ができ、有意義な一日を過ごすことができました。コロナ禍が続き、市民の方と直接お話しできる機会が減っておりますが、今後も

市民が気軽に参加できるイベントへ積極的に参加をして、活動のPRをしていきたいと思っております。

事務局 長栄くみ子



「SDGsフェスタ」



「クレオ大阪中央フェスタ」

### 国連ウィメン日本協会 多摩

2020年度の活動は当団体として初の試みのオンラインとリアルで参加できる形態で開催しました。テーマはSDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」。基調講演「持続可能な社会を創る対話と教育・学習」を東海大学で教鞭をとる二ノ宮リムさちさんから。また当団体事務局長小川裕未さんから「モンゴルの女性支援15年」の話をし、「アメリカのDV被害者支援の現場から見た経済的自立の大切さ」を信國遥さんが事例報告をしました。講師の鼎談やオンライン参加の学生さんらと意見の交換もしました。二ノ宮さんから「大学の授業では対面での地域活動が非常に困難な中、学生のオンライン参加で学生と地域をつなぐ機会が広がる可能性が見えてきた。」と嬉しい感想もいただきました。

代表 大嶽貴恵



終了後には講師も交えて振り返りをしました。

## 国連ウィメン日本協会 よこはま

2020年度はcovid-19の影響を受け、拠出金額の底上げを目指した新企画を含む年間イベント全てが中止となりました。「ウィメンショップ」も一時休業となりましたが、「フォーラム内にある女性支援の場所」としての意義を見いだした会員の熱い思いにより、8月31日に時短営業で再開を果たしました。

有志の手で店内のレイアウトを一方通行型に変更、商品陳列のスペースと当番がいる場所をアクリル板で分離、ショップ入口に消毒液を常備、更にフォーラムの協力でフリースペース入口にも消毒液を設置等できる限りの感染予防策を施しました。

9月には各部会、10月の理事会をリモートワークで実施して、本年度の目標の一つであったデジタル面の強化が進みました。

会長 増岡啓子



感染予防策を施したウィメンショップ

## 国連ウィメン日本協会 東京

新型コロナ感染拡大への不安を抱きつつも、2月14日に2020年度総会・総会記念講演会を辛うじて開催することができました。会場の婦選会館には、多数の方々がお越しくださり、講演では、第73・74回国連総会政府代表顧問、日本女子大学理学部教授の宮崎あかね氏から、2年間のCSWの動向やご専門の立場からの地球温暖化についての見解などを伺いました。2020年は予定していたチャリティーコンサートは中止、バザーでのグッズ販売もできませんでした。12月には上尾市で開催される恒例の清友会クリスマスコンサートにご招待いただき、例年通りのバザーを予定しましたが、残念なことに直前の第三波感染拡大によりバザーは中止になりました。それでも私どもの活動に変わらぬご支援を頂き、感謝しています。このような状況の中、広報活動に力を注ぎ、ニューズレター26、27号を発行することができました。

副会長 阿部幸子



清友会コンサート会場でのバザー風景(2019年12月)

## 国連ウィメン日本協会 さくら

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的大流行 (パンデミック) はコミュニティや社会活動を停止せざるを得ない状態です。当然私たち協力協定団体さくらも集まっての活動は出来ない状態でした。初めての試みとして、オンライントークを企画し、マザー アース カップのご協力を頂き共催で、さくらの大槻会長が「女性・平和・平等」をテーマに講演をしました。このオンライントークには全国の若い女性が沢山参加しました。

また、FAWA (アジア太平洋女性連盟) のリーダーの皆さんも参画。アメリカ合衆国の女性参政権100周年の2020年、連邦議会の女性議員が過去最多の127人で世界ランキング82位。日本は166位、まだまだ意識が浸透していない現状を訴え、国連ウィメンについて、啓発活動をしました。

副会長 小山志賀子



オンライントークで国連ウィメンの啓発活動

## 事務局からのおしらせと報告

### ■ご寄付のお申込みについて

日本協会への寄付は毎月定額をご寄付いただく「継続寄付」(マンスリードネーション)とその都度ご寄付いただく「都度寄付」があります。いずれの寄付も税制優遇措置の対象になります。

お申込みは、国連ウィメン日本協会HPに掲載されております、こちらのページからお願い致します。

<https://www.unwomen-nc.jp/donation/#kifu>

### 「継続寄付(マンスリードネーション)」

毎月定額のご寄付を続けていただく募金方法です。

毎月のご寄付は、世界の女性・少女を支援するUN Women が継続的にプログラムを展開するうえで、なくてはならないご支援であり、世界の女性・少女に希望の未来をもたらします。一度お申込みいただければご指定のクレジットカードからの自動引き落としが可能な、インターネット決済をおすすめします。

インターネット決済では、「継続寄付」をお選びいただき、毎月の定額を1,000円、2,000円、3,000円、5,000円のいずれかを選択していただけます。

### 「都度寄付」

寄付のお申し込みを随時、その都度お受けいたします。インターネット決済の場合は「都度寄付」を選択していただき、1口1,000円からのご寄付をお願いしております。

また、郵便振替もご利用いただけます。

郵便局 振替口座番号:00240-7-43928

口座名義:NPO法人国連ウィメン日本協会

### ■賛助会員募集中

事務局へご連絡いただくか、ホームページからもお申込みいただけます。

【年会費】個人 1口 5,000円

団体 1口 10,000円



### ■寄付者一覧(前回掲載以降2020.12.25現在)

藤本京子 鈴木登美子 大川紀代子 伊藤繁 佐村知子  
花田久美子 ビューティーショップK 北井久美子 社団法人三田  
青年会議所 橋本ヒロ子 衛藤栄津子 小野啓子 本田均平  
本田敏江 鷺見八重子 籾内麻貴 周欣宇 今井公美子  
鈴木千恵子 神野千代 RYUSIA 山内理絵 新谷はる香  
木原直子 松本幸恵 大西珠枝 永谷多光 伊藤光子 仁田有紀  
大山行雄 彩歩の会 Sister伊藤悠美 高田順江 藤原康洋  
深谷知昭 斉藤京子 全国友の会 藤本純子 赤羽美和子  
16ミリ試写室有志 島崎礼子 山崎利恵 阿部晴子 山田彰子  
藤井紀代子 杉浦玲子 加納孝代 大塚昌子 有馬真喜子  
矢部清子 渡邊皓子 岩田喜美枝 田村節子 山川貴子  
創価学会 森真理子 星野利香 (株)朝日エル 小川温子  
安西美津子 芳賀日登美 矢島歯科医院 牧島悠美子 谷口千枝子  
岡島敦子 岩城淳子 尾崎直子 ブックオフコーポレーション(株)  
原田裕美 村松由貴 竹田大輔 藤井裕美子 出口律子

竹本博文 椎木里佳 CI&T株式会社 大島美穂子 豊田皓  
矢澤澄子 榎本和 高岡日出子 ブルーベル・ジャパン(株)  
群馬婦友会 山岸洋子 美根慶樹 東郷俊宏 宇於崎裕美  
村中愛子 小山田瑞那 岡部文子 貞岡奈美 アジア女性交流・研  
究フォーラム 杉山家 加藤幸子 酒井興子 藤田壽子 杉口正子  
長縄ちず子 小笠原崇嗣 讀井暢子 伊東諒 斎藤美栄子  
福島大亮 安田多賀子 安田芳子 和田津美智代 矢崎和喜子  
上田恵美 山本律子 河崎富美子 川村真麻 朝日山雅子  
横山雄磨 藤原綾香 高橋智樹 西尾英子 越智香菜子  
本明理美子 辻野紀子 真鍋芳美 高橋真理 南アヤ子  
小川真理 桜井輝忠 小薊米葉子 武井千恵子 遠藤久子 榎本弘  
春山辰明 湯浅香子 福田沙織 玉城知香 桐山史緒 浜田久里子  
安川千巻 横須賀ゾンタクラブ 荒井有紀子 福澤梢 石橋三洋  
朱明奈 嶋田直子 府川晶子 森岡多恵子 株式会社ソシア  
田中由美子 加藤澄子 国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン  
日本協会東京 国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会さくら  
国連ウィメン日本協会北九州 国連ウィメン日本協会大阪 (公財)日本  
キリスト教婦人矯風会 フィガロジャパン編集部 酒井真喜子

### ■ブックオフ宅本便寄付(前回掲載以降2020.12.25現在)

国連ウィメン日本協会よこはま 上鶴瀬典子 真藤美保  
東金久美子 上岡美代子 岩田ゆかり 八木清美 福田恵  
大塚ちか江 吉本玲子 大塚恒穂 吉岡喜美江  
大阪市男女いきいき財団 細山田純子 井出真澄 芳賀日登美  
鈴木幸子 石原明子 関口桂子

### ■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

### ■正会員団体16団体(前回掲載以降2020.12.25現在)

(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会  
国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 (公財)横浜市男女共  
同参画推進協会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会  
群馬婦友会 国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン日本協  
会多摩 全国友の会 (株)高島屋 (公財)イオン1%クラブ  
国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会東京  
国際ゾンタ26地区 (一社)大学女性協会

### ■正会員個人34名(前回掲載以降2020.12.25現在)

### ■賛助会員団体13団体(前回掲載以降2020.12.25現在)

日本生活協同組合連合会政策企画部 いしがた女性会議  
(公財)せんだい男女共同参画財団 越谷ミズの会  
(株)グッドバンカー (株)電通 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団  
(株)リコー (株)フジテレビジョン 国際ゾンタ姫路ゾンタクラブ  
(株)クロスメディア・ランゲージ 特定非営利活動法人ウィメンズアイ  
国連ウィメン日本協会北九州

### ■賛助会員個人145名(前回掲載以降2020.12.25現在)

新規入会:福沢恵子 原田裕美 坂下政子 岡部文子  
和田津美智代 生井澤和男 三橋一実

以上、敬称略

## <認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

### 事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL/FAX 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

